

<要約版>

滋賀県立琵琶湖博物館協議会 令和7年度第1回会議

日 時 令和7年（2025年）10月3日（金）

14時00分～16時00分

場 所 琵琶湖博物館1階セミナー室

会 議 次 第

1 開 会

2 議 題

（1）第三次中長期基本計画 令和6年度評価について

（2）第三次中長期基本計画の後半見直しについて

3 閉 会

○開会

松本副館長から定足数と会議成立の報告

亀田館長から開会にあたり挨拶

○議題1 第三次中長期基本計画 令和6年度評価について

【事業目標1、2について説明】

事務局（芳賀研究部長）から事業目標1の内部評価について説明

- ・総合研究については順調に進展した。
- ・研究成果の発信のためのウェブ活用も順調に進み、J-STAGE の閲覧数は年間8,500、ダウンロード数は13,000だった。
- ・研究の質を高めるため、大型備品を購入して環境整備を進めたものの、中型備品は購

入に至らなかった。

事務局（大槻資料活用係長）から事業目標2の内部評価について説明

- ・保管環境の長年の課題であったトラックヤードのシャッターを修繕し、照明のLED化も実現した。収蔵庫の増設は進んでいない。
- ・ホームページの収蔵資料データベースを更新した。コケ植物のパケット標本を公開し、英語版も整理した。
- ・3D画像や電子図鑑、WebGISを公開してICTの活用を進めることができたが、使いやすさに課題が残っている。

【事業目標1、2に対する質疑応答】

委員：大型備品を購入されていることは評価したい。一方で、中型備品は汎用性が高いが、購入できていないことでどのような支障が出ているのか。

事務局（芳賀研究部長）：500万円までの中型備品、例えば30年使用している顕微鏡などは購入できていない。もう一度、耐用年数などを確認して優先順位をつけ直すことはできた。100万円以下の備品については、外部資金等で購入できることもある。

委員：共同利用は可能なのか。

事務局（芳賀研究部長）：共同利用は積極的に活用しているが、委託に出せる部分は外注していることもある。

委員：事業目標2-1と2-3は県予算から出たのか。ウェブ図鑑は県内に限ったものなのか。

事務局（大槻資料活用係長）：LED、シャッターについては県予算を充てた。ウェブ図鑑のWebGISは基本的には滋賀県民の方が場所を調べて、そこに行ってみることをメインにしている。

【事業目標3、4について】

事務局（楊環境学習・交流係長）から事業3の内部評価について説明

- ・共催団体の協力のもとで田んぼ体験や観察会などのイベントを実施した。地域連携の依頼も増えており、学芸員の研究活動の時間と分けて進めていくことが課題である。
- ・出会いの場を創出するため、昨年度から、はしあけやフィールドレポーター、企業、団体が参画できる「フェスとも」制度を導入した。

- ・教員を対象とした研修では、プランクトン観察や化石レプリカづくりなど現場での実践性を重視し、校外学習用のワークシートも作成した。

事務局（芦谷展示係長）から事業目標4について説明

- ・中国語の音声ガイドは追加できなかった。
- ・展示室のWi-Fi環境が向上し、公式YouTubeチャンネルの動画にアクセスできるよう二次元コードを設置した。
- ・常設展示室で展示資料の入れ替えやパネル等を用いた内容更新を複数回行った。企画展示室のケースのLED化を進め、重要な文書資料や絵図等も展示しやすくなった。

【事業目標3、4に対する質疑応答】

委員：新しいビワコオオナマズ水槽の工事の進捗状況はどうか。

里口事業部長：なるべく早く公開できるよう取り組んでいるので、どうか温かく見守っていただきたい。

委員：教員を対象とした研修に関連して、はしけや環境学習支援士が学校現場でサポートできれば、教員の負担軽減につながるのではないか。

楊環境学習・交流係長：環境学習センターや企業、地域との協働も意識しながら取り組んでいく。

委員：LED化により、光に敏感な資料を展示しやすくなったということだが、博物館にはそのような資料が多くあるのか。

大槻資料活用係長：LED化により調光や紫外線をカットする機能が付き、今まで出せなかつた資料を出せるようになった。

芳賀研究部長：LED化したことで、資料を借りやすくなった。

委員：LEDは生き物に弊害はないのか。

里口事業部長：当館で生き物を飼育する上でLEDが障害にはなっていない。何か対応が必要な場合は、調光や角度を変えるなどの工夫ができる。

委員：手話言語の表示についてどう考えているか。

芦谷展示係長：現在、手話を用いた解説はしていないため、今後は調査をした上で検討する。

委員：YouTube動画の字幕について、情報保障の観点からどう考えているか。

河崎企画・広報営業課長：動画よっては字幕を簡略化しているが、学術的な内容や当館へ

のアクセス方法を紹介する動画等については丁寧に字幕を出している。当事者団体と調整はしていないので、情報保障については検討する。

【事業目標5、6について】

事務局（河崎企画・広報営業課長）から事業目標5について説明

- ・ウェブ図鑑、3D図鑑、びわはくGISを当館ホームページで公開し、トップページにバナー表示した。
- ・従来の来館者アンケートに加え、はしけやフィールドレポーターの会員を対象とした試験的なアンケート等も展開し、活動の実態把握を試みている。
- ・昨年度、おごと温泉観光協会様と株式会社立兵衛造船所様と連携し、湖上交通を活用した観光・環境学習連携事業を6回実施し、好評を得た。
- ・4月から琵琶湖博物館とおごと温泉港、におの浜観光桟橋を結ぶ新たな定期航路が開設され、当館までのルートを案内するYouTube動画も作成した。

事務局（山田総務課長）から事業目標6について説明

- ・当館の屋上や屋根、外壁、受変電設備などの基幹部分は長期保全計画に基づいて順次更新を進め、電気や空調など基幹部分以外の改修計画については、職員が独自で修繕計画を策定した。
- ・専門業者にそれぞれの設備の老朽度、健全度を判定していただき、安定的な施設管理につなげる。
- ・令和5年度にアクリルガラスを交換するため、令和6年度にビワコオオナマズ水槽の更新のためのクラウドファンディングを実施した。二つを合わせた目標額2,500万円に対し、約2,900万円のご支援をいただいた。
- ・水族展示再生支援寄附は主に地元企業を対象にしたもので、令和5年度からの2年間で約2,400万円のご支援をいただいた。
- ・子どもからも寄附や支援ができる仕組みがあればという声をいただいたため、新たに募金箱を設置し、約30万円のご支援をいただいた。

【事業目標5、6に対する質疑応答】

委員：インバウンドの状況と、海外の方の意見を集約するアンケートのような仕組みはあるのか。

河崎企画・広報営業課長：今年4月から大阪・関西万博が開催されたこともあり、多くのお客様にご来館いただいている。C展示室で、来館者の方々の声を頂戴するコーナーがあり、海外の方の声を抽出して取りまとめている。

委員：別館をどのように利用しているのか、あるいは今後有効に活用する計画があるのか。

山田総務課長：別館はILEC（公益財団法人国際湖沼環境委員会）の事務所として利用しているほか、障害のある方や介護をする方が利用しやすい機能が備わったトイレがある。学校団体の昼食場所としても提供しており、今後のあり方は皆様からご意見を頂戴しながら検討していく。

委員：定量的な目標に置き換えることができれば、達成度が分かりやすくなるのでは。

河崎企画・広報営業課長：目標を定量で示せるものについては、定量で示していきたい。

博物館としてどのようなKPIを示していくかについては、皆様からアドバイスを頂戴したい。

委員：子どもたちが学んだことを通じて交流したり、発信したりするイベントがウェブ上でできれば、滋賀県らしい、琵琶湖博物館の取組として面白いのではないか。

楊環境学習・交流係長：深い学びにつなげていくための発信の場として、今年の「びわ博フェス」若者の発表の機会を設けた。ウェブ上で発信し合う場の提供については、今後の課題として考えていく。

○議題2 第三次中長期基本計画の後半見直しについて

【第三次中長期基本計画の後半見直しについて】

事務局（河崎企画・広報営業課長）から資料6について説明

- ・現計画の中で、中間にあたる令和7年度に見直しを検討することとしている。
- ・大きく変更するのが、全体像の3にある計画のゴールと事業目標。中長期基本計画後半（令和8年度から12年度）における取組の方向性という内容を追加した。
- ・事業目標6については、持続可能な博物館づくりに変えており、持続可能な博物館づくりに向けた長期ビジョンの策定や、施設・設備の大規模改修、財源確保の仕組みづくりを推進する事業目標に修正した。

事務局（河崎企画・広報営業課長）から資料7について説明

- ・新型コロナウイルスが5類感染症に移行するまでは非常に多くの制限を受けたことを

過去形に修正した。

- ・ICT技術の進化に伴うオンライン社会の到来に関し、AIの文言を追加した。
- ・持続可能な社会への取組に関し、滋賀県で取り組んでいるマザーレイクゴールズ(MLGs)について記載した。
- ・ソーシャルインクルージョン（社会的包摂）や生物多様性保全の取組について記載した。
- ・地盤沈下による配管等への影響について課題として記載した。
- ・中長期計画後半（令和8年度～12年度）における取組の方向性として、「びわ博3つのチャレンジ」として、①もっとたのしく、もっとおもしろく（展示、PR、フィールドへの誘い）、②もっとひろく、もっとつよく（交流・連携）、③もっとびわこ、もっとおどろき（資料、研究、発信）をテーマに各種事業を進めることとした。
- ・市民参加型の研究の充実を図っていくこととともに、研究成果を行政・企業へ積極的に提供していくことを通じて社会への還元を進めていくこととした。
- ・絶滅危惧種や希少種の生息域内での保全に向けた企業・団体等との連携・協働の取組を進めることとした。
- ・子どもや、インバウンド、外国人労働者を含め日本語を母語としない方々が快適に楽しく過ごせる館内環境づくりを進め、ソーシャルインクルージョンの推進を図っていくこととした。
- ・従来から大事にしてきた部分ではあるが、来館者の会話を後押しできるような展示交流を充実させていくこととした。
- ・博物館の活動を継続的に行うためには、長期的なビジョンを持ち、誰もが過ごしやすく、安全で安心できる施設を提供することや安定的な財源の確保に努めることが必要になると記載した。

事務局（河崎企画・広報営業課）から資料8について説明

- ・2026年度から2030年度までの年次計画を立てている。
- ・これまで、各年度の達成する状態が多かったため、集約をして分かりやすく記載した。

【後半見直しに対する質疑応答】

委員：財源確保の仕組みは現実的にできるのか。

亀田館長：財源確保は大変厳しい状況にあるが、新しいことも含めて検討していく必要がある。企業・団体等のご協力も得ながら工夫していきたい。

委員：観光キャンペーンにうまく乗っかり、博物館のプレゼンスを高めることができれば、財源も安定的になるのではないか。

河崎企画・広報営業課長：観光コンテンツをつくりながら、プレゼンスを高めていくことが大切だと考えている。

委員：ふるさと納税も活用できるのではないか。

河崎企画・広報営業課長：企業版ふるさと納税制度では、昨年度、約400万円のご支援をいただいた。個人版についても研究していきたい。

委員：広報のピントが少し合っていないのではないか。

河崎企画・広報営業課長：多くの方に关心を持っていただける広報については、知事会見で発表している。博物館を知っていただく、観ていただく機会を増やそうと、今はあえて多くの資料提供をしている。